

神学校献金(神学生奨学金献金) 振替00150-7-669605 日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局

「共に神の畑を耕して」

伊藤光雄（奨学金委員会／連盟担当理事）



2021年度より私の連盟担当理事として奨学金委員会の働きが始まる中で当委員会が全国壮年会連合事務局との緊密な連携によって西南学院大学神学部、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校で学ぶ神学生への奨学金が貸与されていく働きを目の当たりにしています。しかも奨学金委員会の働きは、単に事務的作業を進めるだけではなく、各神学生の動向を含め、学び、生活等への細かな配慮をもって支えていることを強く感じています。奨学金（第一種、第二種）を受けて神学校での学びと生活が支えられて今日まで牧師としての務めをさせていただいた私自身にとって改めてこの大切なお働きに対して深く感謝いたします。

しかしこの奨学金委員会の働きは、全国壮年会連合のみならずからの献金と祈りによって成り立つもので奨学金委員会だけでは動けないのです。しかもこの伝道者養成の働きは全国諸教会・伝道

所の「これから」に直結するものですから私たちはさらに協力と連帯に努めるために祈りを併せていきたいと思えます。

協力は一致のしるしであり、互いにキリストの愛の豊かさに生きるということです。一人の伝道者を立てていくことは簡単なことではないということを私たちは伝道者養成の歴史を通して感じています。だからこそ私たちはキリストの恵みによって生かされている者であることを今一度心に留めて伝道者の発掘と養成のために共に祈り、共に重荷を担い、共に歩み、共に期待し、共に喜びことを大切にしたいと思えます。

私たちは「神の畑」（コリントー3:9）です。つまり私たちという畑の中で主なる神によって芽を出し、育ち、実を結んでくださるのです。全国壮年会連合に与えられた伝道者養成という種、この種が実を結んでくださるために私たちの上に恵みの御業を行なってくださいますようにと祈り、献げて参りたいと思えます。

2022年1月現在の神学生奨学金献金・会費実績および対前年度比較

地方連合名	神学生奨学金献金					連合会費				
	2022/1実績		前年同月		対前年額	2022/1実績		前年同月		対前年額
	金額	教会	金額	教会		金額	教会数	金額	教会	
北海道	411,210	8	394,725	8	16,485	72,000	5	64,000	4	8,000
東北	346,200	11	438,422	12	-92,222	110,000	11	104,000	10	6,000
北関東	838,655	13	1,007,197	15	-168,542	108,000	8	198,000	11	-90,000
東京	1,376,125	18	1,395,430	21	-19,305	240,000	9	108,000	13	132,000
神奈川	1,156,350	14	1,057,700	12	98,650	226,000	7	155,000	9	71,000
西関東	276,091	5	277,788	6	-1,697	55,000	5	59,500	5	-4,500
中部	587,500	9	415,380	8	172,120	144,000	11	110,000	8	34,000
関西	409,700	14	525,500	15	-115,800	74,000	6	84,500	6	-10,500
中四国	675,830	17	705,275	16	-29,445	98,000	9	106,000	10	-8,000
北九州	461,365	12	543,020	13	-81,655	82,000	6	86,500	7	-4,500
福岡	1,434,752	23	1,239,360	24	195,392	247,500	14	231,500	13	16,000
西九州	276,800	8	258,800	7	18,000	50,000	4	28,000	3	22,000
南九州	435,618	12	511,615	14	-75,997	102,000	9	120,000	11	-18,000
地方連合合計	8,686,196	0	8,770,212	171	-84,016	1,608,500	104	1,455,000	110	153,500
個人団体等	469,731	0	5,500	0	464,231	-	-	-	-	-
総計	9,155,927	164	8,775,712	171	380,215	1,608,500	104	1,455,000	110	-64,500

◎1月末現在、教会・伝道所の地方連合合計は前年比で神学校献金は▲84,016円(99.0%)です。

連合会費は、前年比+153,500円。教会数では、-4。会費納入人数は-273名です。

尚、期末に当たり、3月31日までに「ゆうちょ銀行」の所定口座に振り込まれたものを

計上することとなります。期限の厳守にもご協力いただきたく、あわせてお願い申し上げます。

「神学生の証し」 西南学院大学大学院 神学研究科 博士課程前期2年 奥村献（推薦教会 恵泉教会）



皆様の尊いお働きに感謝いたします。また皆様からの呼びかけに応え、毎年多くの献金が全国諸教会から祈りの中で捧げられていることを憶え心より感謝いたします。

2018年から始まった私の神学生生活も、最終年度を迎えました。これまでを振り返って、あらためて献身の出来事は献身者一人で成り立つものではないと感じています。皆様のお支えがなかったならば、おそらく多くの神学生は目指す道を断念していたことだろうと思います。献身の出来事は当人のみならず、家族やその周りを巻き込む出来事でもあるからです。

先日提出した修士論文のテーマは「教会における暴力（ハラスメント）」についてでした。学部での卒業論文のテーマは「神の国の福音」についてでしたが、私の中でハラスメントの問題に向き合うことと、イエス・キリストが示した神の国の福音は切り離す事ができません。イエス・キリストの中心には神の国の福音がありました。その福音はこの世で尊

厳を奪われ、苦しんでいる人々を解放し、立ち上がらせ、希望を与えるものでした。ハラスメントの問題に学びつつ向き合うことは神の国の福音と響き合います。大学院での学びを通してあらためて、私自身がこれまでキリスト者として歩んできたつもりが、多くの方々の尊厳を奪い、傷つけながら歩んできたのだと知らされました。たとえ加害者が被害者を言いくるめ、言い逃れができて、神様の前からは逃げる事ができません。

修士論文を提出後、『プロミシング・ヤング・ウーマン』という映画を観ました。その映画は、加害者を擁護する男性中心社会の「空気」や「土壌」というものを鮮明に描いています。ハラスメントについて考える上で重要な示唆を与えてくれる映画でした。

これから私は、牧会の現場に立っていきます。イエス・キリストが示された解放と救いの道を、この世界で苦しむ方々と共に祈り求めていくことができればと願っています。

「これからの伝道者養成検討委員会（1/26、28）報告」 事務局長 豊永 義典

2014年に作成された「伝道者養成の基本理念」の改訂版を作成するのが課題である。座長である加藤誠理事長から叩き台が提案され、1/26は検討チームだけで、1/28は各神学校の関係者等を交えて協議の場がもたれ、山田会長と豊永が参加した。前回とは教会を取り巻く状況は大きく変化しており、そこをどう表現し、その中でどのように伝道者養成を実現していく

のか、前回の理念との違いを明確に伝えるものにしたと話し合われた。

この後、これまで伝道者養成の働きを協働者として担ってきた壮年会連合との協議を十分に行なって、6月と9月の理事会を経て連盟総会に改訂案が提案される予定である。

「1/29 第3回奨学金委員会報告」

奨学金委員長 篠田裕俊

第3回奨学金委員会では、次を審議いたしました。

- (1)奨学金償却者8名の確認
- (2)2021年度返還免除者
- (3)2022年度奨学金予定額
- (4)奨学金規程運用確認

- (5)奨学金申請様式

2022年度から奨学金委員長は、北村慎二氏にバトンタッチです。これまでのお祈りとご支援を感謝いたします。

「第3回役員会（2/5）報告」

事務局長 豊永 義典

今年度もコロナに翻弄された一年ではあるが、2ヶ月を残す時点で今年度を振り返り、次年度への課題を話し合った。定例の報告や審議を行なった後、これからの全国壮年会連合の活動をどう進めていくのか課題を出し合おうと懇談の場を持った。教会形成のテーマ

を具体的なものにするため、もっと学びの機会を増やす、連合内外での伝道隊活動の活発化、ジェンダーの課題への取り組み、ニュースの紙面を充実して牧師にも投稿を呼び掛けよう、等様々な意見が出た。

新年度の計画にできるだけ取り入れていきたい。



日本バプテスト連盟全国壮年会連合

〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4

事務局執務:月、水、金 10:00~16:00 ☎・fax:048-886-7533 <http://www.sonen.net> sonen@bapren.jp